



## もう少し早く 気付けば…

(子どもの立場)  
平島芳香

両親に対して自分の中にある血縁目線からは、物心がついた時点で何も期待せず、むしろ私の人生の足かせでしかない存在と、他人目線からは不器用なりと世間を健気<sup>けなげ</sup>に渡っている人たち。

私1967年生、父34年生、母41年生、妹69年生の4人家族で、

\*ヤングケアラーとは、慢性的な病気や障害、精神的な問題などを抱える家族の世話をしている子どもやティーンエイジャーのこと

すでに祖父母は他界しており希薄な親戚関係の中で育ちました。

\*

2012年それぞれ別の病気で通院した際、父統合失調症、母うつ病の診断が下され、その時に今までの世間常識から外れた行動を理解しました。

\*

周囲からはなぜこの事態に気付かなかったのかと聞かれますが、物心がついた時には両親ともこの状態だったのでそれがあたりまえの家庭で、何も疑問はありませんでした。親たちは病識もなくむしろ周囲がおかしいと主張し医療には繋がっていま

せんでした。

ヤングケアラー\*問題でも特に精神疾患の親を持つ子どもの発見が遅れる所以<sup>ゆえん</sup>はここにあるかと思えます。

\*

最初の記憶は、泣いても授乳はしてくれない、泣くと疲れるだけなので何も行動をしない、でした。動けるようになると排泄をしてもオムツ替えは期待できないので、気持ち悪さから早々にオムツを卒業しました。まだこの頃の母は最低限の世話をする気力はあったようで死なずにすみましたが、妹が生まれる頃は不調で、すでに私は子育ての手伝いをしていました。

\*

その頃、父は細々と自営業を営んでいましたが収入苦から母がパートに出ることになり、4歳前にして母の採用面接の付き添いに行く羽目になりました。理由は父が子ども連れで面接に行けば哀れみを受けて採用されるだろうと、それを素直に実行する母、今考えるとおかしいことです。

\*

母の就労に伴い、妹と保育園に通園することになります。保育士から私の良い子すぎる行動が異常でおかしい、問題があるから通院させてはとのアドバースがあり、それを受けた父親からは（すでに暴行は受けてい

た）、子どもらしくしないと親が

怒られ恥をかかされる、お前を殴るのはお前が悪いことをしているからで、殴られたことを他人に言うことはお前が恥ずかしいことだから言ってはいけないと口止めをされ、それに母は同調していました。

\*

小学生になると父親の状態が悪化し、就労せず家にひきこもり暴行に刃物が加わりました。父にはいつ私を殺してくれるのかなという期待しか抱かなくなり、高学年になると体力とそれなりに攻撃を交わす知恵もついてくるので、公共の場所ですることが多くなり、まし

\*

その父も私が高校生になると多少落ち着き社会復帰をし無事定年を迎えました。定年後はさらに妄想が酷くなり、その頃母も妄想とゴミ出しにも行けない程のひきこもりで、精神疾患の知識がない私は加齢による認知症かなと思っていました。

\*

それが精神疾患からとわかった瞬間、もう少し早く気付けは親たちは楽な人生が送れたのではと申し訳なさがありました。父が、父が他界した際に何も父に對しての感情がないことに気が、人間として自分は感情が欠けているのかなとモヤモヤした思いを抱くこの頃です。